

平成15年度 畜産試験場 研究課題一覧

no	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額 (千円)
3	独自(経常)	回分式活性汚泥法による家畜尿汚水浄化処理技術の検討	「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」が完全施行されるにあたり、浄化処理施設の設計の参考となるよう、給与飼料や豚舎構造等の飼養管理による汚濁負荷量の変動を調査します。また畜舎排水において他の排水より濃度が高いとされる窒素、リンの除去向上を目的に、現在普及を進めている浄化処理施設であるオキシデーションディッチ型回分式活性汚泥施設(畜産試験場に既設置)の運転法の改良等を行います。	H14~16	2,969
4	独自(経常)	牛の核移植技術	現在、産肉能力や泌乳能力の高い優良な牛の増産のため改良が進められている。さらに高能力牛の増産を目的にクローン技術の開発がなされ、クローン牛の生産が行われている。しかし、クローン牛の生産効率は低く、特にクローン胚の保存技術が確立されていない。 そこで体細胞核移植により作出したクローン胚の凍結保存技術の開発を行います。	H11~15	8,931
5	独自(経常)	高泌乳牛の生涯高生産技術の確立	酪農の安定経営のためには、乳牛の適正な飼養管理と併せて、未利用資源などを活用した低コストな給与技術の確立が有効である。そこで、県内の大規模缶詰工場から排出される廃シロップや諫早湾干拓地内のヨシなどを利用した給与技術の確立を目指します。	H10~15	10,016
6	独自(経常)	育成牛の効率的な生産技術の確立	本県農業の基幹作物である肉用牛の繁殖農家において、子牛(肥育素牛、繁殖素牛)の効率的な生産は繁殖農家経営のレベルアップと段階的な規模拡大を促進し、経営基盤を安定させる。そこで、超早期母子分離技術における適正な哺乳回数等の検討、超早期母子分離技術と放牧を組み合わせた繁殖牛の飼養管理技術の確立、混合飼料を用いた超早期母子分離後の効率的な育成技術を調査検討します。	H11~17	4,286
7	独自(経常)	肉用牛一貫生産技術の確立(黒毛和種雌牛肥育における栄養水準の検討)	一般に雌牛肥育は去勢牛より増体が劣り、体内に余分な脂肪が付きやすいため高品質な牛肉生産が困難であり、雌子牛の市場価値低下の要因にもなっている。今後、雌肥育牛の高品質牛肉生産及び雌子牛の市場価格の上昇による農家所得の向上をはかるため、本研究では、本県独自の雌牛肥育技術の確立を目的として、黒毛和種雌牛肥育における飼料の給与方法や栄養成分が肉質に及ぼす影響等について調査を実施します。	H13~16	14,754
8	独自(経常)	肉用牛一貫生産技術の確立(交雑種の肥育技術の確立)	交雑種(ホルスタイン×黒毛和種)肥育経営において、良質肉を安定生産できる飼養管理技術が求められています。そこで、肉質・肉量の異なる父牛の影響に着目し、良質な肉を生産する交雑種肥育技術の確立を目指します。	H12~15	
9	独自(経常)	イタリアンライグラス高品質調整技術および給与技術の確立	県内冬作の代表であるイタリアンライグラスの乾草調製時期は、天候不順等の影響で良質乾草調製が難しい。そこで、イタリアンライグラスのサイレージ調製および保存・給与技術の確立を目的とする。これらの技術が確立すると、肉用牛では良好な発育が期待でき、所得向上につながる。乳用牛では、高額な県外導入に頼ってきた後継牛の確保を自家育成に転換でき、経営コストの削減、規模拡大が可能となります。	H15~17	2,003
10	独自(経常)	特産鶏高能力システムの造成	本県特産の「つしま地どり」は、現在4種類の鶏の交配により生産されているが、さらに美味しい鶏の改良のために、鶏肉中のイノシン酸含有量に着目し「旨味成分の多い」交配の検討を行う。また、育成日齢毎にイノシン酸量を調査し、適正な出荷時期の検討も併せて行い、長崎県特産の銘柄地鶏の高品質化を推進します。	H13~16	4,076
11	独自(経常)	フィターゼ添加による鶏卵品質の改善	鶏エサの植物由来のリンはそのままでは鶏体内で消化・吸収されにくい。そこで、消化酵素「フィターゼ」を飼料中に添加することで、利用できなかったリンを有効に吸収できる。なお「フィターゼ」添加は鉄、亜鉛などの体に不足しがちなミネラル成分も吸収しやすい状態となるため、これらのミネラル分を卵黄に増加させた高付加価値鶏卵の作成技術の確立を目的としています。	H14~16	3,210

no	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額 (千円)
	独自(経常)	斜面利用による豚ふんの堆肥化処理技術	家畜ふんの堆肥化のコスト低減を図るため、傾斜式の発酵乾燥施設を活用した処理技術について検討し、年間を通して豚ふんをスムーズに落下させるための傾斜角度や調節方法を開発します。また、施設設置や運転経費の低コスト化技術及び運転方法を確立します。	H13~15	6,149
12	受託	飼料イネサイレージの簡易栄養評価推定法による育成牛への給与技術の開発	本県の自給飼料増産と水田転作率の向上という観点から、稲を家畜のえさに利用する飼料イネについて、サイレージの栄養価評価および給与技術の開発を行う。農家現場で栄養価を簡単に評価できる技術として、穂と茎葉の比率からサイレージのエネルギー含量を推定する式を作成するとともに、購入粗飼料に依存しない飼料イネサイレージ(稲発酵粗飼料)を粗飼料とした黒毛和種の子牛育成技術を開発します。	H15~17	2,629
13	国庫受託	飼料作物の系統適応性検定	国が育成したソルゴーおよびイタリアンライグラス新系統について、本県における適応性を市販品種と比較調査します。	S51~	822
14	行政要望	飼料作物優良品種の選定普及	農家が栽培する自給飼料の収量向上および粗飼料の安定確保を目的として、トウモロコシ、ソルゴー、スーダングラス、飼料用麦、イタリアンライグラスの市販品種について、本県における適応性を検討する。また、当场3カ年の試験成績および現地1カ年の試験成績をもとに、本県の奨励品種を選定します。	S57~	1,000
15	行政要望	受胎率向上のための受精卵の凍結・融解方法の検討	牛の受精卵移植技術を、効率的な改良増殖のための技術として一層普及定着させるため、14県参加の共同試験により、受精卵の凍結保存技術を改良し、凍結受精卵の受胎率の向上を図る。そのために、保存液の組成の違いによる、凍結融解後の受精卵の生存性の比較や、代理母牛の子宮へ移植した場合の受胎性の比較検討などを行います。	H14~16	2,000
16	行政要望	豚併用検定	豚併用検定とは、種豚候補豚となる検定豚1頭と同腹の調査豚2頭の計3頭1組を集合検定施設に収容して、発育や飼料の利用効率、背脂肪の厚さ等産肉成績を調査する事業で、産肉能力の高い優良種雄豚の選抜とその効率的な活用を図ることを目的としている。16年度は10組の併用検定を実施します。	S54~	2,010